

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 志野		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和6年12月25日	評価結果市町村受理日	令和7年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosyoCd=2191800040-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで家庭的なイメージのする家屋で「笑顔あふれる和みのホーム」をホームのテーマとし、それぞれのご利用者様が笑顔で活き活きと普通の生活が出来るようにサポートしています。居室入り口にはご本人様の笑顔の写真を貼り居室に馴染みの物をたくさん置き自由に飾り付けする事で、ご自分の居室に愛着を持っていただこうと取り組んでいる。フロアにはご利用者様と一緒に作った季節の貼り絵や紙工作を飾り、ご家族様への毎月のお便りはご利用者様直筆のものとホームでの活動報告新聞を写真付きで送付し、ご家族様にご本人様の日頃の様子が分かるようにしている。ブログも毎月更新するよう努めHPからも気軽にホームの様子が分かるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度の途中に着任した管理者は、職員の安定雇用を前提とした質の高い支援の実践を目指している。機会あるごとに法人の理念や方針、自らの思いを職員に説明しており、職員の意識統一が図られて一体感が生まれてきている。職員一人ひとりが「誇りを持って働くことができる」職場の実現が、着々と歩を進めている。
法人が毎年実施している家族を対象とした満足度調査においても、また今回の外部評価に伴って実施した家族アンケートによっても、家族のホームに対する信頼感の高さが明確になっている。ホームの目指す「利用者に寄り添った支援」が家族にも理解され、特に事務職員を含む職員の対応には称賛や感謝の言葉が多く寄せられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時に運営理念を唱和し、常に意識付けをしている。	「利用者に寄り添った支援」が理念の柱となっており、今年度の途中に着任した管理者は、機会あるごとに職員の意識統一を図っている。その成果として、理念に対する職員の理解、浸透が進んできている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供神輿の休憩場所として施設の駐車場やトイレ等を提供して地域の方々との交流の機会を設けている。今後はホームを気軽に見学してもらえるような取り組みやホームのブログによる情報発信、行政主催の催し物や認知症カフェに参加する等、地域との関りを増やしていく。	コロナ禍で中断を余儀なくされた地域との交流や連携を、目標達成計画に取り上げて活動している。市内の各種の介護事業所が連携して、地域との取り組み(「土岐・ケアのたすきプロジェクト2025」等)を進めている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考になっている。また、参加者の方から地域の情報を活かして外出支援等に役立てている。	2ヶ月ごと、奇数月に運営推進会議を開催している。市・高齢介護課職員は毎回の出席であるが、他のメンバーの欠席が目立つ。運営状況の報告は、資料等を用意して丁寧に行われている。	会議の目的の一つである「目標達成計画の進捗評価」を、議題の一つとして取り上げることが望ましい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢介護課を定期的に訪れたり、メールや電話等で連絡をしている。	運営推進会議に市・高齢介護課の担当者が必ず参加し、ホームの運営状況の把握に努めている。市が主催する介護事業所連絡会が中心となって「土岐・ケアのたすきプロジェクト2025」が企画され、令和7年2月にイベントが開催される。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施にて職員の意識を強めている。 身体拘束廃止委員会を設け、定期的に話し合いを行っている。	法人作成の「行事カレンダー」に「虐待・身体拘束廃止研修」が組み込まれており、3ヶ月に1度の開催である。2ヶ月ごとに、「不適切ケアのチェックリスト」を用いた支援の振返りを行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の不適切ケア・虐待のチェック、職員同士で援助方法の確認をしている。	法人作成の「行事カレンダー」とは別に、年間予定表の「虐待・不適切ケア・身体拘束防止の取組」が作成されている。法制化された取り組みや手続きが漏れたり、提出期限に遅れが出ないように、詳細な指示事項が記載されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが今のところ必要性があると思われるご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の間にある程度区切りをつけ、その部分の説明について不安や疑問点無いか聞くようにしている。管理者により十分だと思われる時間をとっているが、理解と納得が得られるまで説明は行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙と共にご家族からのご意見をいただく用紙を送付している。また、面会や来訪された時にご意見を賜りすぐに実行出来るものについてはすぐに反映させている。	コロナ感染症は5類へ移行となったが、感染への警戒を解いてはいない。家族面会は一定の制限を設けているが、看取り支援の際には居室への入室を認めている。各種アンケートの結果から、ホームに対する家族の評価は非常に高い。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議の他、日々の雑談等からも職員の意見や提案を聞いている。良い意見で管理者が承認出来るものについてはその場でokを出している。確認が必要なものについては後日改めて結果を知らせるようにしている。	毎月、ホーム会議やユニット会議が開催されており、職員意見を聴く機会はある。しかし、管理者は年間3回の個人面談を重要視しており、職員の本音を聴き、法人の運営方針や管理者の思いを理解してもらう機会として活用している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	定期面談と日々の雑談等から職員の状況を把握している。状況により個別に相談や面談を行っている。	離職率を低減させるため、様々な改善・改革に取り組んでいる。サービス残業撲滅のための業務改善(ICT化等)を行い、職員の意向を反映させた勤務シフトを組んでいる。管理者は、職員が誇りをもって勤務できる就業環境の構築を目指している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している	職員の資格取得(介護福祉士、介護支援専門員等)を推奨し、法人の助成制度がある。キャリアパスの資格要件ともなる「認知症介護実践者研修」の受講を、法人を挙げて推進している。永年勤続表彰は、非正規職員を含む全職員が対象である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職を中心に徐々に交流の機会を増やしている。2月には行政主催のイベント展示会に出展参加予定。今年は更に交流が増えると思われるので、実際自身の肌で感じた事を事業所に持ち帰りサービスの質の向上に役立てる事が出来ると思う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事活動や畑仕事を一緒にする事により、スタッフとご利用者様がお互いに協力し助け合い生活を共にしている関係性を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどういった生活を送りたいのか聞き取りを行っている、また、日常の何気ない会話の中からも小さな希望を把握して、それを介護記録やスマートフォンに記録して共有している。	介護計画の見直し時に、利用者と家族の意向を聴き取っている。利用者の思いを正確に聴き取るため、管理者が講師となって「コミュニケーション技術」の研修を行い、「自身の価値観をフラットにする」ことを指導している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議で課題や思いをまとめ、話し合うようにした。計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている	利用者や家族の意向を汲み、短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を設定した介護計画を作成している。介護計画の作成の際には、複数の職員が参加するサービス担当者会議が行われている。	介護計画には、個別性の薄い目標の設定が散見された。「個別ケア」は、利用者一人ひとりの思いを叶える支援であり、「その人」が分かる目標設定とすることが望ましい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、スマートフォンに日々の様子を記録に残し、いつでも情報を共有できるようにしている。	重要な申し送り事項や、職員の様々な気付等が、パソコン内に記録として残されている。それを毎朝の朝礼で読み上げ、職員間で共有して支援にあたっている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われず外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている。	利用者の重度化に際し、管理者の豊富な人脈を活かして移行先の施設を検討し、家族に紹介している。利用希望のある待機者に関し、現在利用している施設と待機期間の支援内容を調整し、スムーズに入居できるよう配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて土岐市役所高齢介護課の方、民生委員の方、長寿会の方、ご家族様のお話を聞かしています。今はスタッフとご利用様がホームの周辺を散歩する事により顔見知りとなり、ご利用様が楽しんで散歩が出来るようになりつつあります。今後は認知症カフェ等にも参加し地域との関りを増やしていきます。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の協力医療機関情報共有会議と個人往診の際に、職員・利用者・主治医を交え現在の状況を伝え必要に応じた医療を受けられている。	これまで使っていた医療機関をかかりつけ医とすることも可能であるが、現在はすべての利用者が協力医療機関を選んでいる。協力医は、訪問診療に加え、個人往診や情報共有会議への参加があり、万全の医療支援体制を整えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院関係者に連絡をし情報をいただき、退院に備えている	入院先の病院の相談員と密な連携を図り、医療計画を共有している。ZOOMを使って退院に向けた検討会議を行い、歩行の様子を動画配信してもらう等、ホームへの受入れが円滑に進むよう取り組んでいる。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。また、社内研修も毎年行い、医療機関からの支援もいただいている	浴槽への入浴が困難な利用者や寝たきりの利用者等、介護度4～5の利用者を特養に移行した。家族向けに説明書「特養入居までの流れ」を作成し、家族にとっても喜んでもらえる移行措置となるよう配慮している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、一部のスタッフは普通救命講習の研修に参加する予定です。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は消防訓練を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し災害時には協力をお願いしている。近くの嶋香寺(とうこうじ)には災害時に協力していただけるようにしている。災害用BCPを作成し、スタッフに配布したりいつでも確認できるようにしている。	ホームが立地する地域は、ハザードマップ上で水害警戒地域に指定されており、これまでも実際に避難したことがある。年2回の防災訓練を実施し、運営推進会議の議題として大規模災害時の地域協力を話し合っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、居室へ伺う際はプライバシーを損ねないよう戸を必ずノックする。 排泄の確認の声かけをする際も、ご本人様のすぐそばで確認するようにしている。	利用者の機能維持を考慮し、その人、その時に応じて、介助と見守りの支援を適切に使い分けている。居室に利用者がいなくても、職員は入室時にノックを欠かさない。排泄や入浴の介助では、利用者の羞恥心に配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい・いいえで答えられる質問でなく、意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝や起床の時間等声掛けはするが、その方のペースで行動していただいている。 事前に入浴時間を確認し、ご入居者様の希望に沿うようにしている。レクリエーション等参加の意志を確認している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食時の卵を割る、副菜の盛り付け、コップ洗い等、できる事は一緒にやっていただいている	献立は法人の栄養士が作成し、調理担当職員が食材を調達して調理している。利用者の希望や力量により、食材の下ごしらえや下膳、食器洗い、拭き上げ等の手伝いがある。 企画しての外出は自粛中である。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、食事量を調節し提供。 口腔内や嚥下の状態に合わせて食事形態を変えて提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い、必要があれば援助にて口腔ケアを実行してもらっている	訪問歯科医が毎週訪れ、希望する利用者が月に1度の歯科受診をしている。自立度の高い利用者は自身で歯磨きを行うが、他は職員が口腔ケアを実施している。歯科衛生士による口腔ケアの指導も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員同士で、利用者の夜間等の排泄パターンを共有しあい、失禁が減りリハパンから布パンツに移行できる		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。また好みの湯温にしたり、入浴時間の工夫や入浴剤等を利用し入浴した時の満足度を上げるようにしている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察して日中の休息方法や居室の環境を検討し実施している。眠れない方にはホットミルクを提供したり、リラックス効果のあるハーブを置いたり、雨の環境音等を流す等して気持ちよく眠れるよう工夫している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されている。服薬事故の無いようマニュアルに沿って服薬支援をしている。提携薬局の薬剤師にお願いして薬の勉強会を開催する予定でいます。	提携薬局の薬剤師が薬を管理(セット)し、1日分が薬ケースに入れてある。誤薬事故を防ぐため、投薬や空袋の確認は複数の職員でチェックしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の準備や洗い物を役割としてやっていただいている。ゴミ捨てに外まで付き添って頂いたついでに、散歩に出かけたりしている。カラオケが好きで通っていた方にホーム内でカラオケを楽しむ機会を設けている。	食事の準備や後片付け、食器洗い等を自身の仕事として受け止め、キッチンに立つ利用者がいる。利用者本人の希望により、ホームの菜園で野菜作りを楽しむ利用者もいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中庭や駐車場、施設周りを散歩する機会がある。本人の食べたいものをスタッフと一緒に買い物に出かける機会がある。休日や年末年始、連休時にご家族の協力の元、ご家族様と外出や外泊をする機会がある。	家族の協力で外出・外食したり、帰省したりしている。家族の希望によって、伊勢神宮の参拝を実現させた利用者がいる。依然として外出支援の規制を行っており、コロナ禍前の状態に戻るには時間がかかりそうである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている ZOOMにて連絡を取り合う方もみえる		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	額縁の中の絵を毎月変更したり、季節を感じることでできる物を用意し一緒に作って楽しんだりしている	築10年を迎えようとしているホームであるが、清掃が行き届いて真新しさがある。ホーム全体にゆったりとしたスペースが確保され、食堂兼リビングや通路も広くとってある。対面式のキッチンからは、リビング全体が観察できる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスに席を設け共用できる居場所を作っている テラス席で土岐川の景色を独りで眺め物思いにふける方もおられる		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までご本人が使ってみえた馴染みのダンスや椅子などの道具を持ち込んでいただいている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真をつけ、自分の部屋がどこなのか分かりやすくしている。トイレの表示を遠くからでもわかる位置とトイレの扉の2か所につけて分かりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 織部		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和6年12月25日	評価結果市町村受理日	令和7年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kagokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191800040-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで家庭的なイメージのする家屋で「笑顔あふれる和みのホーム」をホームのテーマとし、それぞれのご利用者様が笑顔で生き活きと普通の生活が出来るようにサポートしています。居室入り口にはご本人様の笑顔の写真を貼り居室に馴染みの物をたくさん置き自由に飾り付けする事で、ご自分の居室に愛着を持っていただこうと取り組んでいる。フロアにはご利用者様と一緒に作った季節の貼り絵や紙工作を飾り、ご家族様への毎月のお便りはご利用者様直筆のものとホームでの活動報告新聞を写真付きで送付し、ご家族様にご本人様の日頃の様子が分かるようにしている。ブログも毎月更新するよう努めHPからも気軽にホームの様子が分かるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時に運営理念を唱和し、常に意識付けをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供神輿の休憩場所として施設の駐車場やトイレを提供して地域の方々との交流の機会を設けている。 今後はホームを気軽に見学してもらえるような取り組みやホームのブログによる情報発信、行政主催の催し物や認知症カフェに参加する等、地域との関りを増やしていく。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考にしている。また、参加者の方から地域の情報を活かして外出支援等に役立てている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢介護課を定期的に訪れたり、メールや電話等で連絡をしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施にて職員の意識を強めている。 身体拘束廃止委員会を設け、定期的に話し合いを行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の不適切ケア・虐待のチェック、職員同士で援助方法の確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが今のところ必要があると思われるご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の間にある程度区切りをつけ、その部分の説明について不安や疑問点無いか聞くようにしている。管理者により十分だと思われる時間をとっているが、理解と納得が得られるまで説明は行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙と共にご家族からのご意見をいただく用紙を送付している。また、面会や来訪された時にご意見を賜りすぐに実行出来るものについてはすぐに反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議の他、日々の雑談等からも職員の意見や提案を聞いている。 良い意見で管理者が承認出来るものについてはその場でokを出している。確認が必要なものについては後日改めて結果を知らせるようにしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	定期面談と日々の雑談等から職員の状況を確認している。状況により個別に相談を受けたり面談をおこなっている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職を中心に交流の機会を増やしている。2月には行政主催のイベント展示会に出展参加予定。 今後は交流さらには増えると思われるので、実際自身の肌で感じた事を事業所に持ち帰りサービスの質の向上に役立てる事が出来ると思う。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事活動や畑仕事を一緒にする事により、スタッフとご利用者様がお互いに協力し助け合い生活を共にしている関係性を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどういった生活を送りたいのか聞き取りを行っている、また、日常の何気ない会話の中からも小さな希望を把握して、それを介護記録やスマートフォンに記録して共有している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議で課題や思いをまとめ、話し合うようにした。 計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、スマートフォンに日々の様子を記録に残し、いつでも情報を共有できるようにしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われず外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて土岐市役所高齢介護課の方、民生委員の方、長寿会の方、ご家族様のお話を聞かしています。 今はスタッフとご利用者様がホームの周辺を散歩する事により顔見知りとなり、ご利用者様が楽しんで散歩が出来るようになりました。 今後は認知症カフェ等にも参加し地域との関りを増やしていきます。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の協力医療機関情報共有会議と個人往診の際に、職員・利用者・主治医を交え現在の状況を伝え必要に応じた医療を受けている		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院関係者に連絡をし情報をいただき、退院に備えている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。また、社内研修も毎年行い、医療機関からの支援もいただいている		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、一部のスタッフは普通救命講習の研修に参加する予定です。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は消防訓練を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し災害時には協力をお願いしている。 近隣の嶋香寺(とうこうじ)には災害時に協力していただけるようにしている。 災害用BCPを作成し、スタッフに配布したりいつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、居室へ伺う際はプライバシーを損ねないよう戸を必ずノックする。 排泄の確認の声かけをする際も、ご本人様のすぐそばで確認するようにしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい・いいえで答えられる質問でなく、意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝や起床の時間等声掛けはするが、その方のペースで行動していただいている。 事前に入浴時間を確認し、ご入居者様の希望に沿うようにしている レクリエーション等参加の意志を確認している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食時の卵を割る、副菜の盛り付け、コップ洗い等、できる事は一緒にやっていただいている		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、食事量を調節し提供。 口腔内や嚥下の状態に合わせて食事形態を変えて提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い、必要があれば援助にて口腔ケアを実行してもらっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員同士で、利用者の夜間等の排泄パターンを共有しあい、失禁が減りリハパンから布パンツに移行できる		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。また好みの湯温にしたり、入浴時間の工夫や入浴剤等を利用し入浴した時の満足度を上げるようにしている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察して休息方法や居室の環境を検討し実施している。眠れない方にはホットミルクを提供したり、リラックス効果のあるハーブを置いたり、寒い時にはエアコンの他に湯たんぽを使用する等して気持ちよく眠れるよう工夫している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されている。服薬事故の無いようマニュアルに沿って服薬支援をしている。提携薬局の薬剤師にお願いして薬の勉強会を開催する予定でいます。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の準備や洗い物を役割としてやっていただいている。ゴミ捨てに外まで付き添って頂いたついでに、散歩に出かけたりしている。カラオケが好きで通っていた方にホーム内でカラオケを楽しむ機会を設けている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や駐車場、施設周りを散歩する機会がある。本人の食べたいものをスタッフと一緒に買い物に出かける機会がある。休日や年末年始、連休時にご家族の協力の元、ご家族様と外出や外泊をする機会がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている ZOOMにて連絡を取り合う方もみえる		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	額縁の中の絵を毎月変更したり、季節を感じることでできる物を用意し一緒に作って楽しんだりしている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスに席を設け共用できる居場所を作っている テラス席で土岐川の景色を独りで眺め物思いにふける方もおられる		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までご本人が使ってみえた馴染みのダンスや椅子などの道具を持ち込んでいただいている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真をつけ、自分の部屋がどこなのか分かりやすくしている。トイレの表示を遠くからでもわかる位置とトイレの扉の2か所につけて分かりやすくしている。		